

[平成13年度 普及に移す技術]

シバザクラのセル苗と専用シートによる畦畔の雑草抑制管理システム							
[要約] 畦畔を専用シートで被覆した後シバザクラのセル苗を植え付けることで、畦畔の雑草管理が可能です。セル苗育苗にはピートモス1：山砂1の混合培土が適し、育苗期間は288、200穴セルトレイで8週間、162穴で12週間、128穴で16週間が限界となります。							
福井県農業試験場・園芸・バィ行部・花き研究グループ				契機	普	要請元	奥越農林総合事務所 農業試験場
部会名	野菜・花き	専門	栽培	対象	緑化植物	分類	普及

[背景・ねらい]

畦畔の雑草管理の省力化や景観向上のため、地被植物を大規模に導入する場合、ある程度植物が被覆するまでの雑草管理や大量の苗の準備が大変で、効率的な育苗、畦畔定植技術の確立が望まれています。そこで、シバザクラを対象にセルトレイを用いた育苗技術、および民間と共同でセル苗専用シートを開発し、簡易な畦畔の雑草抑制管理システムを確立します。

[技術の内容・特徴]

1. 専用シート(ポリエステル90%、レーヨン10%)は、セル苗植え付け部位を16ヶ所/m²の密度でポケット状に加工したもので(図1)これを畦畔に張り付け、シバザクラのセル苗をポケット内に入れるだけで、簡単に定植できます。
2. 苗の活着は、シートに穴を開けて土中に埋め込む場合と大差なく、被覆率は定植1年後に60%以上に達します。
3. 専用シートを用いると、従来のシートに穴を開けて定植する場合と比べ、春、夏とも畦畔の雑草生育が抑制されます(図2)。
4. セルトレイで苗を育苗する場合、培土はピートモスと山砂の等量混合が、根の生育や発根株率が高く適しています。
5. セル苗の限界育苗期間は、288穴、200穴で8週間、162穴で12週間、128穴で16週間となり、セル容量が小さいほど短く(表1)畦畔定植時期から逆算した育苗計画を立てることができます。

[技術の活用面・留意点]

1. セル苗生産と畦畔緑化が一体となって振興できます。
2. 畦畔は、専用シートのポケットが地面と密着する程度に整地する必要があります。
3. セル苗の根鉢が崩れて小さい場合は、ポケットに山砂を補充します。
4. 定植時に緩効性肥料(360日タイプ、14-12-14)を10g/株ポケット内に施用します。
5. 定植後は乾燥に注意し、活着までは適時灌水が必要です。

[具体的データ]

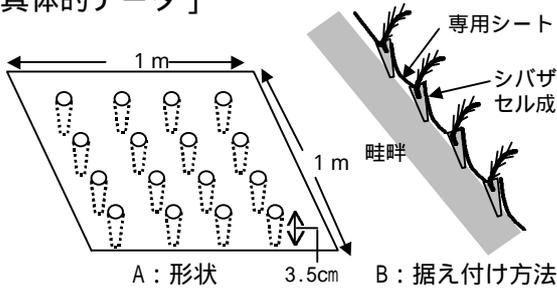


表1 セル数と育苗限界

	枯死率(%)			育苗限界 (週間)
	8週間	12週間	16週間	
	(12/9)	(1/6)	(2/3)	
128穴	0	0	4.4	16
162穴	0	4.4	20.0	12
200穴	0	20.0	40.0	8
288穴	0	35.6	48.9	8

挿し芽日：99年10/14、挿し穂の長さ 74mm
新鮮重 1.8g、恒温室(昼温25、夜温20)で管理

図1セル成型苗専用シートの形状と畦畔への据え付け方法



図2 植え付け方法が被覆率におよぼす影響

挿し芽日：99年8/5(128穴セル成型苗)、同6/11(9cmポット苗) 定植日：99年10/1
栽植密度：m²当たり16本(セル成型苗)、9本(ポット苗)
定植時苗質：株高 5.1cm 株径 1.8cm(セル成型苗)、株高 5.8cm 株径12.0cm(ポット苗)

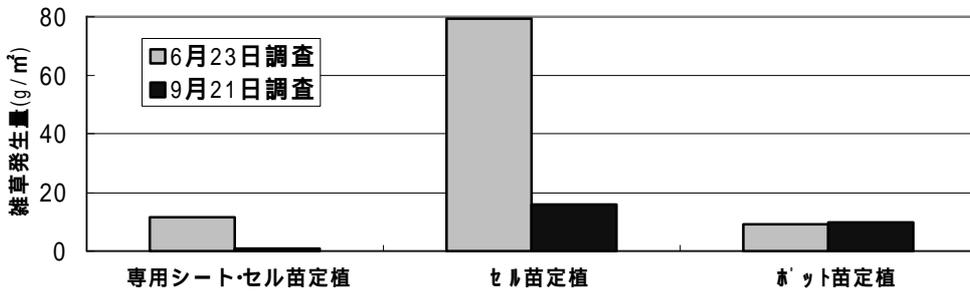


図3 植え付け方法が雑草発生量におよぼす影響

挿し芽日、定植日、栽植密度、苗質は図2に同じ

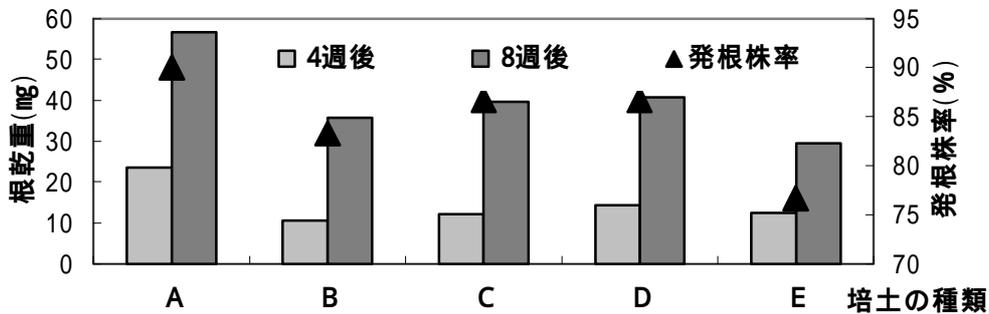


図4 セル成型用培土の違いが発根におよぼす影響

挿し芽(10/16、128穴セル1株)後、4、8週間目に根乾重、8週間目に発根率を調査。

Aゼーペースト:山砂(1:1) B腐葉土:山砂(1:1)
Cバーミキュライト:山砂(1:1) Dバーライト:山砂(1:1)
Eシステムソイル(単用)

A~Dは、土1Lに緩行性肥料でN成分 1.12gを混合